



7月号 令和5年6月30日発行

# 荏田小たよりの

横浜市都筑区荏田南町694番地 [TEL911-0149]  
[http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/]



## Pay It Forward (恩送り)

### ～「恩送り」でつながっていく学校でありたい～

校長 伊藤 智樹

新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが5類変更になり、6年修学旅行、6月土曜参観、西湖宿泊体験学習等も制限なしで実施することができました。梅雨の季節ですが6月21日からは水泳学習も実施しています。これも保護者の皆様方の健康観察等の予防対策へのご協力とご理解の賜と幸いです。爆発的な感染拡大は見られないものの、新型コロナ感染症そのものは微増傾向にあり、インフルエンザや他の感染症も見られるとの報道もあります。教室では冷房を稼働させていますが、換気等に配慮していきたいと思えます。

**「恩送り」とは、英語で「ペイ・フォワード」正確には「pay it forward」と表現します。直訳すると「先に払う」になります。意味は「誰かから受けた恩を、直接その人に返すのではなく別の人に送ること」です。「pay it forward」が注目されるきっかけは、「Pay It Forward」というアメリカ映画です。日本でも公開されました。「世界をより良くするには、何をしたらよいか?」という課題が社会科の授業で出され、「自分が受けた善意や思いやりを、他の3人に送ること(ペイフォワード)で善意の輪が無限に広がっていく」というアイデアを少年が発表、実践していくストーリーです。**

人はこの世に生を受けてから様々な場面で人とかかわりながら生きています。そのかかわりの中で恩を受けると、直接その人に返すことがあります。昔話の「鶴の恩返し」がその例です。一方で「恩送り」という考え方は、自分が受けた恩を返す人数に上限はありません。世の中には、この「恩送り」は多くあります。恩返しをする場面よりも恩送りが多いのではないのでしょうか。学校はまさにそういう場だと思えます。子どもたちが家庭や地域でいただいている愛情の全ては、次の世代への恩送りのバトンでつながっているといっても過言ではないと思えます。このバトンを多くの人に渡せればと思えます。



私事になりますが、私の初任校は重度重複の肢体不自由の子どもたちが通う養護学校(現在の特別支援学校)でした。医療的ケアが必要な子どもたちも多く在籍していました。呼吸管理や服薬、リハビリや治療法等を含め保護者や主治医と一緒に協働しながらの教育活動でした。保護者は経験のない初任者の自分に対しても病気のことはもちろん、重度重複肢体不自由児の将来のこと、親の悩みや不安等を語ってくれました。担任をしている子どもが亡くなる悲しいこともありました。その保護者は「ここでの経験を一般校でも生かしてくださいね。子どもや家庭を元気づけてくれる先生でいてくださいね。」と私が異動する際に優しい言葉をかけてくれました。養護学校で教えていただいたこと(恩)は自分の教員生活に大きな影響を与えてくれました。初任校で私を育ててくれたのは先輩教職員や保護者そして子どもたちでした。保護者の言葉はまさに「恩送り」のことを意味していたと思えます。

最近「〇〇県では〇〇人不足」「ブラックな学校現場」「長時間労働が学生から敬遠」「教員採用選考倍率低下」という報道に接することが多くなりました。その度に学校が直面している問題点やその改善策についての議論がなされ一部報道もされています。

どのような状況に学校が直面しても私たち教職員の存在意義は「次世代を担う子どもたちの育成」です。教育もある意味この「恩送り」ではないかと思えます。理想かもしれませんが、「恩送りにつながっていく学校でありたい」と最近特に感じます。教師としての矜持をしっかりとって教育活動にあたっていきたいと思えます。